

a 学校教育目標	夢や目標に向かって、ともに伸びる子供の育成	<p>【ミッション】 自分を愛し、夢を語る児童の実現 【ビジョン】 『夢や目標の達成に向け、ともに伸びる子供の育成』 <めざす学校像>『協働し、ともに伸びる』という教育観のある学校 <めざす子ども像>『共感的なかわり合いを通して、「ともに伸びよう」とする子供』 <めざす教職員像>『「ともに伸びよう」とする児童の育成に向け、協働、切磋琢磨する教職員』</p>
----------	-----------------------	---

評価計画				自己評価				改善策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための具体的方策	f 評価項目	目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価 イロハ	m コメント	
					h 達成値	h 達成値							
豊かな学力	主体的に考え、深い学びを追求する児童の育成	授業力の向上 ○学習規律の徹底 ○「問い」と「対話」を取り入れ、児童が主体的に学ぶ単元構成・単元開発 ○ICT機器の効果的な活用と選択	○教職員アンケート「学習規律を守る児童を育成している」	90%	90%	100%	111%	A	教職員アンケート、授業研事後検討アンケート、児童アンケートは、どの項目も目標値を達成することができた。特に、児童アンケートでは、「自分の考えを書いている」と答えた児童が93%と高く、授業の中で、見通しや個人思考の時間の充実を図ったことが結果につながっている。学習規律においては、学習の準備物(下敷き・削った鉛筆等)がそろっていない現状も一部見られた。	・学習規律について、現状や改善策等を暮会で確認し、学校全体として取り組んでいく。学習の準備物においては、朝の会や授業の始めに点検し、児童に意識づけるとともに確実にそろえるようにしていく。 ・研究授業だけでなく、普段からお互いの授業を見合ったり相談したりする時間を確保することで、授業力の向上に努める。	○	・学習の準備物が揃っていないというのは、授業がおもしろくなくなると思うので、しっかりと知らせてそろえるようにするとよい。 ・どの学年も学級も素晴らしかった。頑張っている姿が見られた。普段からの取組なのだと思う。 ・問いと対話の設定がよい。アウトプットをすることが大切。将来のプレゼン能力につながる。沼田東は密に話せる関係性があるところがよい。	
			○授業研事後検討アンケート 『「問い』『対話』の設定により、児童が主体的に学んでいたか』 ○児童アンケート 「授業はよく分かる」 「授業は最後まで考えている」 「自分の考えを書いている」 「ペアやグループで自分の考えを話している」 「友達と自分の考えを比べて考えている」	平均80%	88%	91%	113%						
	基礎学力の定着	○「学力分析事業」を活用し、学力調査の結果を取り入れた授業改善の実施 ○朝学習の時間の活用 ○水曜日6校時活用による学力調査40p以下児童への対応	○全国学力学習状況調査の結果、全国平均以上	2/2教科	1/2教科		50%	B	全国学力学習状況調査や学力調査に向けて、茶レンジタイムや茶タイムの時間を使い、計画表に基づいて練習問題等の取組を進めることができた。 2学期の単元末テストの結果、平均85点以上だった学級・教科は15/22教科(68%)だった。成果としては、日々の授業の中で、定着を図るための練習問題の時間を確実に取り入れることができたことや、単元に入る前にテストの内容を確認し、児童がつまりきそうな問題を授業の中で取り扱ったことなどが挙げられる。しかし、学年間で点数に差が見られたので、単元末テストに向けての取組を再度共有していく必要がある。	・全国学力学習状況調査や学力調査に向けて、計画表に基づいて練習問題等の取組を続けていく。 ・単元末テストについては、成果があった取組を共有し、今後の学習に生かす。また、学年間でテストに向けての取組を話し合い、月に1回程度確認をする。	○	・学力の定着では、成果のあった取組を教えてほしい。テストから逆算して、単元設計をしている。 ・算数は連続性の教科。基礎だけは付けさせてほしい。	
			○学力調査の結果、10学級13教科(国語、算数、理科)全国平均以上	8/13教科	13/13教科		109%						
豊かな心	自他を尊重する心・態度の育成	規範意識の育成 ○沼田東小5つの柱(「靴揃え」「挨拶」「時間厳守」 「右側歩行」「黙って掃除」)を守る ○児童会、委員会活動による規範意識の向上の取組 ○生徒指導規程の定期的な見直し	○教職員アンケート「規範意識を身に付けられるように指導している」	80%	95%	95%	118%	A	12月に行った教職員、児童アンケートでは全て目標値を上回った。 これは、教職員の意識が高まったのと、児童会の取り組みや高学年の規範意識の向上が学校全体によい空気を送り込んでいることに起因していると考えられる。 また、年末に児童が主体となって決まりの見直しを行ったことにより、「自分たちが決めたことは自分たちで守る」という意識が向上していることも要因として考えられる。	・児童会役員が毎月目標を5つの柱から設定したり、各学級の代表が集う代表委員会で学校の課題(即した目標設定)を行った。達成するための企画を考案することで、学級で協力して達成しようという意欲をもたせる。 ・児童会役員が中心となり、全校が集まる児童朝会を継続して実施し、目標を達成した学級を紹介することで、結果をフィードバックできるようにする。また、目標達成には至らなくても児童朝会の様子で5つの柱に関する視点で良かったクラスを評価していく。 ・昨年度は高学年児童が、きまりの見直しを行ったが、今年度は全校児童が参画できる仕組みができたことを継続していく。	○	・全体的に目標が達成できている。立てた目標がちょうどよかったのではないかなと思う。 ・児童会を活用し、主体的にきまりを守ろうとする意識を醸成している。 ・スマイル班活動がよい。	
			○児童アンケート 「生活のきまりやルールを守って生活している」 「5つの柱を守っている」	平均80%	96%	96%	120%						
	共感的なかわり合いによる人間関係づくり	○QUUの結果の活用による、特別活動(学校全体、学級活動)の効果的な活用 ○総合的な学習の時間、生活科の時間を中心に、地域や社会がよくなるために自分がすべきことを考える時間を設ける。	教職員アンケート 「特別活動を通して、児童の人間関係形成能力を育成しようとしている」	80%	85%	97%	121%	A	・スマイル班活動(縦割り班活動)では、毎日の掃除だけでなく、月に1回のスマイル班遊びを行うことで、共感的な人間関係の育成の一部を担うことができた。 10月に行ったQUUアンケートの結果、各学級の1次支援の児童の割合は、増加した。(9/11学級) また学級満足群の数値が向上した学級も増加した。(5/11学級) 全体的に親和性のある学級集団の中で、安心して学校生活をおくる児童が多い。しかし、不安を抱えている児童もいることを念頭に置き、自己肯定感を高めている取り組みを考えていく必要がある。	・スマイル班活動(縦割り班活動)では、高学年は低学年の見本に、低学年は高学年へのあこがれが持てるように、各委員会や5・6年生を中心とした活動に積極的に取り組んでいく。また職員もチーム沼田東として「みんなで支え合い、みんなで育てる」という意識のもと、全児童に積極的に関わっていく。 ・QUUアンケートの結果を職員で協働的に分析し、効果的な取り組みを交流する場を設定していく。 ・総合的な学習の時間や生活科の学習を充実させるために、人材バンクを活用したり、地域に貢献できる活動を取り入れたりする。	○	・児童が地域のためにという意識が高まっていないので、意識を高めるために、地域に出てきてほしい。やってほしいことがあったら、できる限りの努力をする。	
○QUUの結果、第1次支援の児童の割合	80%	75%	81%	101%									
健やかな体	生涯にわたって健康を維持しようとする態度の育成	生涯にわたって運動しようとする態度の育成 ○休憩時間の外遊びの奨励 ○楽しく、運動量がある体育科の授業 ○体力テストの課題「握力」「ボール投げ」解消のためのACPの活用	○児童アンケート 「体を動かしたり運動をしったりすることは好きだ」	80%	89%	93%	116%	A	12月に行った児童アンケートの結果、「体を動かしたり運動したりすることは好きだ」「体育の授業は楽しく体を動かしている」がともに目標を達成できていた。一学期に引き続き、体育科の授業においてICTを活用したり、ゲーム性のある運動を取り入れたりすることで楽しく活動できたものと考えられる。 ○児童アンケート「体育の授業は楽しく体を動かしている」	12月に行った児童アンケートの結果、「体を動かしたり運動したりすることは好きだ」「体育の授業は楽しく体を動かしている」がともに目標を達成できていた。一学期に引き続き、体育科の授業においてICTを活用したり、ゲーム性のある運動を取り入れたりすることで楽しく活動できたものと考えられる。 ・引き続きゲーム性のある運動を取り入れることで、楽しく活動できるようにする。 ・基礎的で簡単な動きに取り組みさせたり、自分の力に合わせた場を選択したり、場の設定を工夫したりすることで、できる喜びを味わわせるようにする。 ・自分自身で目標を立てさせたり、その目標に向かって学習内容を決定させたりすることで、個々の目標に向かって意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・ICT機器を効果的に活用し、動画を撮影したり動きのコツを調べたりすることで、課題発見や互いに関わり合うことに繋げていける体育科の授業を行う。 ・体力テストで課題のある項目(筋力アップ)に特化したACPや体つくりの運動を、職員研修で紹介し、学校全体で取り組んでいく。 ・生活目標として掲げることで外遊びを意識させたり、縄跳びカードを活用したりして外遊びを奨励し、体力向上を目指していく。	・引き続き、暮会を活用して、教職員全員で取り組むことを周知し、方向性を統一した取組をしていく。 ・悩み相談会を定期的に実施することで、若手職員の悩みを聞く機会を設定し、積極的にアドバイスをする。 ・引き続き、学年主任会を活用して、学年間でズレがないかどうかを全員で確認する機会を設定する。	○	・夏場は暑すぎた。子供たちは、よく外に出て遊んでいる。遊びを通して体力をつけるというのがよい。 ・すばらしいと思う。 ・マラソン大会、大縄跳び、大谷グローブを使うなど、体をよく動かしている。
			○児童アンケート「体育の授業におけるACPの実施」	100%	100%	100%	100%						
			○全教職員が、時間外勤務時間、月平均45時間達成	95%	100%	95%	100%						
信頼される学校	校長のビジョンを具体化し、教職員の育成	主任を中心とした機能的で協働的な組織による校務運営 ○学校運営に積極的に参画する職員 ○主任を中心とした月1回の部会を活用し、校務を円滑に遂行	○教職員アンケート 「学校目標の達成に向け協働し、教育し教育活動を行っている」 「自己の職務について、自己の責任として遂行している」	平均90%	98%	100%	111%	A	12月に行った教職員アンケートの結果、「学校目標の達成に向け協働し、教育し教育活動を行っている」 「自己の職務について、自己の責任として遂行している」がともに100%だった。教職員の肯定的評価が目標値を上回った。暮会を週2回、部会、学年主任会を月1回実施することで、学校の課題に全職員ですばやく対応することができたことも要因と考えられる。	・引き続き、暮会を活用して、教職員全員で取り組むことを周知し、方向性を統一した取組をしていく。 ・悩み相談会を定期的に実施することで、若手職員の悩みを聞く機会を設定し、積極的にアドバイスをする。 ・引き続き、学年主任会を活用して、学年間でズレがないかどうかを全員で確認する機会を設定する。	○	・随分、よくなった。木曜日の5校時授業は、6時間目に作業などの時間に使えるのでよい。 ・クロームブックで作成したファイルを使いまわせるようにするとよい。 ・すばらしい。教員は研究と修養を行わなければならないが、学んでいきたいという気持ちを高めるのが難しいところがある。 ・PTA行事など、先生にも手伝ってもらいたいし先生を引き出したいという思いはあるが、難しいということを痛感した。	
			○教職員アンケート「主任として部を主体的に運営する(主任のみ)」	90%	100%	100%	111%						
			働き方改革による子供と向き合う時間の確保	○全職員が時間外在校時間、平均月45時間未達成 ○ボトムアップによる業務改善案の提案	○全教職員が、時間外勤務時間、月平均45時間達成	95%	100%	95%	100%	A	入校と退校の目標時間を設定し、守る声掛けを行った。平均すると時間外勤務月45時間以内で達成できた教職員は95%であった。仕事の精選を行ったり、優先順位を考えて仕事を行ったり、時間の使い方を工夫したりする姿が見られた。また、SSS(学校サポート事務)をうまく活用し、自分の仕事ができる時間を捻出することができるようになってきた。	・木曜日の全校5校時授業の放課後には、会議や作業等を入れず、教職員の事務作業や教材研究を行うことのできる時間を確保する。 ・準学校衛生委員会等で、教職員の意見を吸い上げ、改善できるところは改善していく。 ・行事等PDCAを行い、行事の準備や練習に時間をかけず成果が出せるものを検討し、実行していく。	○
達成しようとする		○業務改善を推進したり、業務改善の視点で学校行事等を見直そうとしていたりしている。	90%	95%	100%	105%	A	準学校衛生委員会や各部で話し合った内容から、改善できるところは改善を行った。その結果、肯定的に評価した教職員は100%であった。しかし、発表参観日等の行事を行う際に、業務改善の観点でそろえようとしたところがその意図からずれてしまう面が見られた。	・引き続き、準学校衛生委員会や各部会で出てきた教職員の意見を吸い上げ、業務改善につなげていく。成績処理の忙しい時期には放課後の時間が確保できるよう5校時授業を効果的に取り入れる。 ・学年主任会等を活用し、行事等の足並みを各学年でそろえる意識を高め、教職員同士で情報交換しながら進める風土を作る。	○			

【自己評価 評価】
 A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) <100
 C: 60% (もう少し) <80 D: (できていない) <60

イ:自己評価は適正である。
 ロ:自己評価は適正でない。
 ハ:分からない。